

これこそ人間のすべて

コヘレト12：9－14

主題：これこそ人間のすべて

- (1) 神を畏れるとは、
- (2) その戒めを守るとは、

導入

神さまは、憐れみ深いお方ですね。そのお方を畏れるとは、どういうことを言っているのでしょうか？そして、その戒めを守るとはどういうことを言っているのでしょうか？これこそ、人間のすべて。とコヘレトの言葉が意味する真実に迫ります。

- (1) 神を畏れるとは、

二週間前に最終回を迎えた2020年のNHK大河ドラマ「麒麟が来る」で、1572年当時の天皇、正親町（おおぎまち）天皇を坂東玉三郎さんが演じていましたが。史実ではないだろうとのことですが、天皇が明智十兵衛光秀を御所に呼んで、歌を聞かせ、穏やかな世を迷わずに歩もうではないかことばをかけ、明智十兵衛、その名を胸にとどめ置くぞよ、と申し渡したとか。人の世で最も高い位にいる存在とつかいの武将とは、その身分の相違から、顔を合わせることもなく、数少ないことばを交わしたと、それすら、あり得ない話だというのですが、最も気高いお方が、そのお方は、地上に降りて来られたお方ゆえ、顔と顔を合わせて合間見ゆることを得させてくださるんですよね。膝を突き合わせて対話を導かれるんですよね。縦社会の伝統の中に身を置いてきたお互いが味わい難いほどに、その壁をぶち破って、取っ払って、高い所から降りてきて、わたしたちの名を呼んでくださるんですよね。ヴィヴァルディが17世紀に洗礼を受けた教会で、その名がその証拠がちゃんと残っている、記されているそうですけれども、天にわたしたちの名が記されているというのは、ただ、書物に名が記されている、刻まれているだけではないですよね。きっと、主がその名を胸にとどめ置いてくださっているんだと思います。それほどに、親しみを覚えるお方を畏れるとは、いかなることを指すのでしょうか？

コヘレトの言葉の著者と同じ人が描いた箴言にも、神を畏れることが随所に記されていますね。それは、紛れもなく主を敬うことです。ですから主の知恵と訓戒を重んじる、尊ぶ、懐に抱くんですよね。ですから悪を憎む、悪から離れる。それはまた、自分を見て、賢いと思わないことを意味していますね。/無知な者は自分の道を正しいと見なす。知恵ある人は勧めに聞き従う（12：15）。ともあります。愚かな者の生き方が、自分の目にだけ正しく見えるのは、そこに他者のことばが入る余地がないからで、ましておや、主

なる神のことは、声の入る余地が閉ざされている。それが、自分の目にだけ正しく見える。という閉ざされた自分だけの空間を作り出して、独善的になっている。自分の殻に閉じこもってしまうことから解き放ってください。と祈られます。 1

主を敬うことが、神を畏れることであるなら、最初から主を敬え。と言えいいようなものですが、今一度、なぜ神を畏れるというのかを問いかけてみたいと思います。おそれるには、恐怖の意味と畏敬の意味とふたつありますね。ヤーレーというおそれるということばは、3000回以上旧約聖書に出てきますが、その圧倒的多数は、恐怖の意味で出てきます。神さまがアブラハムに「恐れることはない。」と言われたのは、恐怖の意味で、怖がることはない！と言われたのでしたね。今朝の聖書のみことばが言い表している神を畏れるは、恐怖ではなく、畏敬の方ですね。それはまず、神の臨在に触れるところから始まります。神の家ベテルでヤコブが神の臨在に触れた際に、ヤコブは、神を畏れるところへ導かれましたが、それは、神があなたを決して見捨てない！と言われたことへの彼の応答でした。神の約束に対して導かれたものが、神を畏れるでした。それは、ヨセフへと受け継がれたことが伺えます。彼は、兄たちが自分を売り飛ばしたエジプトを訪ねてきた際に、まだ身分を明かす前でしたが、自分は神を畏れる者だと証したわけですが、それは、わたしを信頼してよいのだと言ったも同然です。つまり、神を信頼するものであることを神を畏れる者だと言ったわけですね。神が見捨てないと言ってくさったので、神が共にいてくださることがひしひしと伝わってくるので、神を畏れると言っていることになります。ですから、恐怖でなく畏敬を表わす神を畏れるは、神が遠くにおられるのではなくて、すぐここまで来てくださったからこそその実感であり、表現であることがわかります。

(2) その戒めを守るとは、

このお方の戒めを守るということは、わたしたちをご自身の懐に迎え入れてくださるお方のみこころを、ですからわたしたちも懐に抱くんですよ。それは、自分を見て賢いと思うことをいつも遠ざけてくれます。

「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」と訊かれて、イエスさまは、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」(マタイによる福音書22章36から40節)と言われましたね。/この問いかけは、詰まるところ、モーセ五書を通して神がキリストを通して言われているこの上もないことは何ですか？と訊いたんですね。旧約聖書に書かれている内容で、神さまがキリストを通して言われているこの上もないことは？と訊いたんですね。答えをすぐに求めずに、問いを深く理解せよ。とは中国のことわざだそうですけれども。何が訊かれているのかを確認せずに、すぐに答えようとするのはいただけませんね。

この問いに対して、イエスさまは、何とお答えになったのでしょうか？あなたの感情と精神(知的心的プロセス)と理解でああなたの神主をあなたは愛することになる。と言われたんですね。

ね。必ずそうなると言われたと考えていいかと思います。これが、この上もなく、第一の神がキリストを通して言われていることだ。とおっしゃった。

第二もこの上もなく神がキリストを通して言われていることで、その隣人をあなたのようにあなたは愛することになる。と。 2

隣人ということばに定冠詞がついていますから、それがだれのことだかわかるんですね。モーセ五書（旧約聖書）も神の代弁者として立てられた人たちもすべてが、神がキリストを通して言われているこのふたつのことにかかっているのです。かかっているというのは、高いところにということですよ。その昔、電話は高いところにかかっていた。よく目立つところですよ。聖書全体は、神がキリストを通して言われているよく目立つこのふたつのことにかかっている。と言っています。これは、しがみついているという意味でもありますので、聖書全体は、神がキリストを通して言われていることから離れないように読むという事でもありますね。それが、今朝のふたつめのポイントですね。神の戒めを守るとはそういうことになりますね。

結び

1週間前、ある教会の指導者とお会いした際に、気づかされたことがありました。それは、隣人を自分のように愛しなさい。とイエスさまがおっしゃっているみことばで、自分のように、というところに自分はあまり向き合ってこなかったな、と。神を愛し、隣人を愛する、とこのくだりをはしょってわたしが発言したことから、その方は、自分のように、が欠落していることにかみつかれたんですね。でも、わたしとしては、かみついていたで、幸いでした。その直後から、わたしの中で、隣人を自分のように愛する、の自分のように愛するがはっきりとテーマになりました。生活の中でそれはどういうことだろうか？聖書は何と言っているのだろうか？を教えていただく旅が始まりました。感謝なことです。そのことがあるまとまりをもったら、表現する機会を与えていただけるのではないかと考えています。教えられることばかりです。新しい発見が尽きません。それこそ、人間のすべて。と聖書は語り掛けているのではないのでしょうか。